

今月の題字  
齋藤修一さん

(徳島県徳島市)

「正心誠意」をモットーに建設会社を経営し、「エムズ新聞」という新聞を発行しています。徳島で18年ぶりに再会しました。正に「正心誠意」の人でした。

# 虹の架橋

六月二日は『ながめDE浪曲』  
五代目東家三楽襲名口上!

第十八代日本浪曲協会会長の富士路子さんが浪曲界の大名跡・五代目東家三楽を襲名し、ながめ余興場で襲名披露口上が行われます。毎年恒例となり、年々ファンが増えているながめ余興場での浪曲公演は今年一層の盛り上がりを見せそうです。木戸銭は千円。足利屋、アスク、小屋設計、穂紫野、井筒屋支店、シイナでもチケットを販売中。是非、お越しください。



今回は、東家三楽さんが「権太栗毛」を披露、浪曲協会理事でもある澤順子さんが「夢一」の女、東家孝太郎さんが「赤城しぐれ」東家三可子さんが「赤城山最期の夜」を演じます。浪曲は明治初期から始まった芸能で、三下りの三味線を用いて物語を節と啖呵(台詞)で演じる語り芸です。ながめ余興場の地下にある展示室には歴代の浪曲協会会長を務めた浪曲師がながめ余興場の舞台を踏んだ時のチラシや資料がたくさん残されています。ながめ余興場は落語界と共に浪曲の世界でも大きな注目を集めています。



小耳にはさんだ

いい話  
(文責・菊) 《285》

五年後をメドに新紙幣ができるというニュースを聞き、本棚にあった『現代語訳・論語と算盤』(ちくま新書 洪沢栄一著 守屋淳訳)を読み返しました。この本の「はじめに」にこんなことが書いてあります。

「会社に出勤するため、いつも通りJRに乗って日経新聞をひらいた。ふと目をやると、車内吊り広告にサッポロビールのまさうな新製品の宣伝がある。帰りに買って帰ろうと思いがら、お金を下すのを忘れていた

## 「論語と算盤」

ことに気づき、会社近くのみずほ銀行のATMに寄る。そういえばもう年末、クリスマスは帝国ホテルで過ごして、初詣は明治神宮にでも行くかなあ。その前に聖路加病院に入院している祖父のお見舞いにも行かなくちゃ。どこにでも転がっていきそうな日常の心象風景のひとつコマだが、驚くなかれ、ここに出てくる固有名詞すべての設立に関わった人物が洪沢栄一なのだ。

洪沢栄一が設立に関わった会社は約四百七十社、それ以外に五百以上の慈善事業にも

## 世界一小さな 定利屋

### トイレ美術館

今月の絵《285》

平田哲也さん『二つの言葉』



福岡県みやま市に住む平田哲也さんとは十年来の新聞発行仲間です。平田さんの「やべがわ新聞」には「癒しのてっちゃん地蔵コーナー」や「親バカコーナー」があります。先日届いた新聞には次女の鈴乃さんの成人式の写真と平田さんが描いたお地蔵様が載っていました。平田さんご一家にはお会いしたことはありませんが、やべがわ新聞に登場する三姉妹も小さい頃から「ありがとうとごめん」の言葉を大切にすることを家庭の中で明るく育ったのだと思います。心癒されるお地蔵様の絵と言葉、素敵ですね。



洪沢栄一  
御言葉は遠くなれども昭和の日

関わり、ノーベル平和賞の候補にもなっていたそうです。洪沢栄一は、資本主義は利益を増やしたいという欲望をエンジンとして前に進んでいくという面があるのでそのエンジンにはしばしば暴走する。だからこそ、その暴走を止める枠組みとして、人の生き方の指針となる「論語」が必要なのだと言っています。三菱財閥の創始者岩崎弥太郎との「屋形船合事件」という話も紹介されています。ある時、岩崎弥太郎が洪沢栄一を向島の料亭に誘い「君と僕が手を握れば、日本の実業界を思い通りに動かせる。これから二人で大いにやろう」という提案をしてくる。洪沢栄一は、富というものは分散させるべきものだ。自分一人が金儲けする気は毛頭ない。いろいろな事業を起こして大勢の人が利益を受けると同時に国全体を富まして行くことが私の念願だ」と腹を立てて席を立って帰ったそうです。古川市兵衛と共に足尾銅山開発にも関わった洪沢栄一は大間々から一時間足らずの深谷市出身。洪沢栄一記念館には洪沢の人柄を知ることができ、資料が数多くあります。新一万円札が楽しみです。

## 靖ちゃん日記

四月十七日(水)

全国芝居小屋会議に参加した。全国の芝居小屋関係者や旧金毘羅大芝居「金丸座」がある香川県平所に来まり総会を開いた。総会後、歌舞伎を観た。中村勘九郎、七之助兄弟、中村扇雀、市川中車といった豪華な顔ぶれ。国の重要文化財の芝居小屋はさすがに格調が高い。夜の芝居小屋会議の懇親会では、琴平町長や内子屋のある内子町長、永楽館のある豊岡市長さんに地酒の赤城山と振舞って喜ばれた。琴平町長の案内で二次会へ行くと、太田川という名のスナックのママさんかっさ、きまぐれ勘九郎さんがここにあってんよーれと言った。その椅子に座り、ハイを飲んだ。勘九郎さんの弟子の中村仲侍くんが「大間々大好き」と言っていた。昨日は徳島の齋藤修一さんの案内で阿波踊り会館で踊りを覚えた。二次会でスナックのママさんの踊りの睨つきに見惚れた。一編に踊った阿波踊りが赤城山音頭になっていた。



虹の架橋 ↑ 検索 で、インターネットからでもご覧いただけます。

第二八六号は六月一日(土)発行予定です。

♡ やつちゃんの似顔絵提供…ひさかさん